

やまと 民俗への招待

鹿谷勲

10月8日夜、奈良市奈良阪町の奈良豆比古神社を訪れた。すでに拝殿の周囲には多くの人々が集まっていた。ここで宵宮^{ゆきみや}の芸能として翁講由(24軒)から翁舞(国の重要無形民俗文化財)が奉納される。

主が登場し、社殿を背にして床几に座ると、演者と離子方が衣裳部屋から渡り床を通って次々と現れ、拝礼して所定の座に座る。予定通り午後8時から始まった。

は瀧の水、鳴るは瀧の水
日は照るとも」「といふ
千代までねわしませ、わ
れらも千秋そうらわん」と
語いながら千歳の舞を
始める。りりしい姿だ。
終ると太夫と脇一人
が面を着け、太夫の舞に
移る。このあと脇二人が
太夫の両側に立ち、「玉
長地久びまん円満」と
やくすぐればいすれの顔
も成就せざらん富貴栄華
喜びの万歳樂」「棟に棟
をならべ門に門をたて
富貴栄華と守らせたま
これ喜びの万歳樂」と譯



真摯な奈良阪の翁舞

「いたたたた」たたたあか
りりりりりりで始まる前
話があり、そのあと少年
のふんする千歳が「鳴る

をもって済ませ申す。一切所願皆令満足され喜びの万歳樂」という詞章があり、「添え翁」「願済の翁」と呼ばれてきた。

翁舞は能の世界でも特別な曲とされ、天下泰平・國家安穏・五穀豊穣を祝禱する曲とされる。この曲を秋祭りに目前の芸能として奉納してきた土地では、1年間無事に暮らせたことを祝い、掛けた「願」を一旦済ましてから、もう一度願を掛け直して祈るのが曾富だったのだ。そうした真摯な習わしが奈良阪でも続

表

奈良民俗文化研究所代